



町長からのメッセージ

業地域への大型商業施設などの進出のための環境整備につながります。私たちが、防潮堤のかさ上げなどを「財産・（企業の）生産活動を守る対策」として津波防災まちづくりの中心課題に据えるのかといえ、まさにこの事業が『豊かな・勢いのある吉田町』を維持、拡大する切り札にほかならないからです。

まず、中山三星建材（株）工場跡地は3年前の東日本大震災の発災前におおむねある製造会社に売却が決まりかけていたのですが、大津波の襲来によって一瞬に消えてしまった経緯があります。その会社に見れば、津波被害を受ける可能性が高い地域に、あえて投資をする経営上のリスクは避けるのが当然でしょう。であるとすれば、防潮堤のかさ上げによって津波被害の可能性を取り

除けば、再び製造業の誘致が見込めるということになり。この跡地は、工業地域に用途指定されているので、防潮堤のかさ上げが決めれば、製造業の進出は十分にあるものと見込んでいます。次いで、浜田土地区画整理事業地域ですが、榛南幹線沿いの組合保留地には、大型商業施設などの進出の打診がある旨の報告を受けています。浜田土地区画整理事業地域は幹線沿いの土地であるという立地上の有利さが、防潮堤のかさ上げにより担保されれば、保留地を含めたこの地域は大きく変貌し、住居地域を含めた川尻地区のまちぐるみでの再開発も夢ではないでしょう。

次いで、中・長期的に見てみましょう。東名川尻幹線と富士見幹線の開通は、北区の開発の懸案であった吉田インター周

辺の農地転用と相まって商業・工業地域と住居地域へのすみ分けを可能にする大規模な開発に確かな展望を開くものと考えています。ただし、大井川のかんがい事業もあり、農地転用が可能になるまでに今しばらく時間を要することを考えれば、腰を据えてインター周辺の整備構想を詰める必要があります。

最後に、舞台民附線の拡幅を伴った「ファッションセンターしまむら吉田店」から「カインズホームスーパーセンター吉田店」までの西伸と住吉幹線の榛南幹線までの南伸は、防潮堤のかさ上げ・坂口谷川の河口への水門設置と相まって、国道150号南側の吉田たんぼ全域と住吉幹線の海岸に近い地域では、住居地域の拡大と商業地域の拡大につながると見込んでいます。

これまでの述べたことは、本町の人口増加を約束するものです。交通環境の目を見張るような整備と工場の進出、大型商業施設の進出は、工場勤務する会社員と商業施設への購買者を増加させて本町の豊かさを増し、勢いに弾みをつけることができるかと考えます。具体的には「健康・福祉」政策と「教育・文化・交流」政策を質的に充実させることによって若者を中心とした生産年齢人口の人々を呼び込み、定着化を図り、人口の増加と若返りが図られるものと期待を寄せています。

「財産・生産活動を守る対策」の素早い取り掛かりとスピード感を伴った工事の進捗は、本町が激しさを増す都市間競争に生き残れるか否かを占う

ものであり、その目処さえ立てば、道路網の整備と製造工場・大型商業施設の誘致に弾みがついて町の勢いを促進させることができるものと考えています。

平成22年の国勢調査に基づいて発表された「地域別将来推計人口」は平成27年に30,348人、平成32年に30,458人と上向くものの、平成37年に30,377人と下向きになって、平成52年には29,071人になると推計されていますが、これまでに述べた施策によって本町が豊かさを増し、勢いを強めて弾みをつけることができれば、人口が右肩上がりに増加する町をつくり出せるものと考えています。

今後とも、勢いのあるまちづくりに向けた取り組みへのご支援をお願いいたします。



新しい年が明け、平成26年が始まりました。今、吉田町は『津波防災まちづくり』を喫緊の課題とし、スピード感をもって取り組んでいます。アクセルを力強く踏み、スピードを上げ、東日本大震災を境に新たに求められた、千年に一度の南海トラフ巨大地震に耐えうる、新しい安全の上に吉田町を再構築するため、行政は夜を日にかけて頑張っています。この東日本大震災を機に始まった新しいまちづくりに携わりながら、その先に描いている吉田町の明日を語っていきましょう。

町長からのメッセージ 115

吉田町の明日を語る



都市整備について

川尻区を車で走られた町民の皆さんは既にご承知のことと思いますが、大幡川幹線が整備され、川尻区の大井川沿いの工業地域の交通環境は見違えるように変わりました。この大幡川幹線の整備に続いて、本町の道路網の要となる東名川尻幹線と榛南幹線が開通するとともに、住吉区では「ファッションセンターしまむら吉田店」から「カインズホームスーパーセンター吉田店」に至る舞台民附線が拡幅、住吉幹線が「カインズホームスーパーセンター吉田店」から南に向かい中央幹線と交差し、榛南幹線に接続、さらに、北区では東名川尻幹線に接続する富士見幹線が東に伸びて大幡川幹線に接続とそれぞれ本町の道路網が整備され、都市環境の充実が図られます。

産業の振興について

大幡川幹線に続いて東名川尻幹線、榛南幹線、舞台民附線、住吉幹線、富士見幹線が開通すれば本町の交通環境は一新され、産業の振興に大きな弾みがつくものと考えています。

交通網の整備によってどのような産業が振興されるのか、夢を描いてみましょう。

まず、短期的に見てみましょう。東名川尻幹線と榛南幹線の開通は、津波防災まちづくりによる防潮堤の整備と相まって、中山三星建材（株）工場跡地への製造業の再誘致、および浜田土地区画整理事

